

登熟期の異常高温に負けない「丈夫な稲づくり」の実践を!!

地域の水利事情に応じ、ほ場が乾かない程度の『浅めの飽水管理』を行いましょう!

1. コシヒカリの生育状況について（7/30 調査：生育調査 14 地点平均値）

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m)	葉齢 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/ 6	110.6	431	13.1	34.6
和島	5/ 8	102.5	460	13.1	34.2
出雲崎	5/ 5	104.0	385	13.0	32.5
三島	5/ 5	99.3	378	13.0	33.5
与板	5/12	100.1	328	13.0	30.8
こしじ	5/11	101.9	353	13.1	37.6
平均	5/ 8	103.6	397	13.0	33.9
7/30 指標値	—	92.0	360	12.8	33.0
平均との 指標値比	—	112% 長い	110% 多い	6日程 早い	+0.9 並み

① コシヒカリは前回調査と比べ、葉色は維持・回復の傾向にあり、穂肥施用の効果が見受けられます。出穂期の理想の葉色値：33を確保できている圃場が多く見受けられます。

② 予報ではコシヒカリの高温感受性の最も高い期間（出穂後 10～13 日）において、猛暑日に遭遇します。
→シラタ米の発生防止のため、浅めの飽水管理に努めましょう。また、可能な場合は夜間入水により地温の低下を図りましょう。

2. 出穂期～登熟期間の飽水管理の徹底について

- ① 長期間にわたるタメ水は厳禁！→根腐れを助長してしまいます。
長時間（24 時間以上）のタメ水は、根の活力・機能低下を招きます。
日中に暖まった水（≡お湯状態）の湛水状態で夜を迎えると、夜間の涼しい時間帯でも「外気温以上の水温」により稲体を消耗させ、養分転流（登熟）を阻害してしまいます。さらに根の活力・機能の低下は、養水分の吸収能力低下の要因となり、登熟に大きな悪影響・品質低下を招きます。
→但し、フェーンの発生が予想される場合は溜水し、白穂や不稔を防止しましょう！

② 最終かん水日は出穂後 25 日以降とし、暗渠栓の開放を可能な限り遅くしましょう。
早すぎる落水（出穂後 25 日前の完全落水）は、籾水分の過度な低下による品質の低下（胴割粒・未熟粒の発生）につながります。可能な限り、収穫間際まで飽水管理を継続しましょう!!
- 夜間に稲体が休まる管理をするのジャ！

夏バテ防止!!

©フンジャ

～ 8月上旬より高温予想!浅めの飽水管理により、高温障害・シラタ米を回避しましょう!! ～

格落理由	被害写真	発生条件
背白粒		◇出穂後 5～24 日（登熟初中期）の長期間にわたる高温条件 → 登熟前半の高温の影響：大 → 玄米の炭水化物受入能力の低下 * 登熟期の栄養不足（窒素不足）～後期栄養凋落が発生を助長 * 出穂後の不適切な水管理 → 長期湛水や早期落水 → 登熟初期からの継続的な高温条件により、登熟後期の玄米中のデンプン蓄積能力が低下し背側が白濁する
心白粒		◇高温感受性の最も高い期間（出穂後 10～13 日）の高温条件 ～ フェーン等による強い「高温ストレス」+「水分ストレス」 ◇登熟初中期（出穂後 20 日間）の平均気温が高い * 登熟期の栄養（窒素）不足が発生を助長（1 回目の穂肥量の不足） * 出穂後の極端な水不足（渇水）、早期落水 → 根・稲体機能の低下

3. 出穂期と刈取適期（予想） 7/30 調査時点で、収穫は早まる見込みです!

- ① 管内全体のコシヒカリ出穂期は平年比 6 日ほど早い状態を迎えています。
→ 北部地区：7/26～7/31、中部地区：7/26～8/3、こしじ地区：7/27～8/7
- ② 下表の刈取適期（予想）を参考に適期収穫に向けた刈取作業計画を立ててください。また、高温年は下表積算温度より「- 5 0℃」で開始します。

品 種 名	出穂期（※は予想）	刈取適期（予想）	積算温度の目安
ゆきみらい	7 月 13 日 ～ 7 月 22 日	8 月 18 日 ～ 8 月 28 日	975℃
五百万石	7 月 12 日 ～ 7 月 19 日	8 月 18 日 ～ 8 月 26 日	
わたぼうし	7 月 16 日 ～ 7 月 22 日	8 月 22 日 ～ 8 月 28 日	
ゆきん子舞	7 月 19 日 ～ 7 月 26 日	8 月 25 日 ～ 9 月 2 日	
こしいぶき	7 月 20 日 ～ 7 月 27 日	8 月 25 日 ～ 9 月 2 日	
ゆきの精	7 月 19 日 ～ 7 月 26 日	8 月 25 日 ～ 9 月 2 日	1,000℃
こがねもち	7 月 21 日 ～ 7 月 24 日	8 月 28 日 ～ 9 月 1 日	
コシヒカリ	7 月 26 日 ～ 7 月 31 日※	9 月 4 日 ～ 9 月 19 日	
越 淡 麗	8 月 4 日 ～ 8 月 11 日※	9 月 13 日 ～ 9 月 22 日	1,000～1,050℃
新 之 助	8 月 8 日 ～ 8 月 15 日※	9 月 20 日 ～10 月 2 日	1,050～1,100℃
にじのきらめき	8 月 1 日 ～ 8 月 6 日※	9 月 19 日 ～ 9 月 25 日	1,100～1,200℃

* 刈取適期（予想）：長岡アメダスデータの積算で算出（8 月 2 日までは本年値、以降は平年値）
* あくまでも目安です。今後の天候やほ場ごとの出穂期・栽培条件 等により前後します。
* 特に高温時は積算温度と収穫適期に乖離があるため、実際に圃場を良く観察しましょう。

4. 適期収穫に向けた判断について

- ① 出穂日以降の積算温度に基づく刈取適期予想（上記表）を参考に作業計画を策定して下さい。今後も高温気象が続く予想となっていることから、早めにほ場ごとの籾黄化割合を観察して「黄化籾割合が 85～90%程度になった時期」を基本とし、収穫作業を開始して下さい。
- ② 刈取適期以降は日を追って胴割粒の発生率が増加します。刈取適期から遅くとも 5 日以内に刈り取りできるように作業計画を策定し、乾燥機的能力に限界がある場合には、カンントリーエレベーターやライスセンターの共乾施設利用により、適期刈取に努めて下さい。



【1 穂での刈取適期目安】
圃場の中庸なところから平均的な穂を選んで調査します。
写真：黄化籾の割合が 85～90%程になった頃（上位 3～4 本目の 1 次枝梗に着生する 2 次枝梗が黄化した頃）で



【バラ籾での刈取判断】
圃場の中庸なところから 5～6 穂程度（約 400 粒）を抜き取り、脱穀して 9cm シャーレ等に並べて調査します。
写真は籾の黄化率が 80%で、概ね 1～2 日後に 85%を迎えます。

営農 LINE 登録者はスマホ版で鮮明な写真で確認できます!

5. 適正な乾燥・調製について

- ① 収穫後は、籾を速やかに乾燥機に搬入～通風し、ヤケ米の発生を防止しましょう。
- ② 胴割米の発生を防止するため、乾燥機の毎時乾減水分は 0.5～0.6%としましょう。0.8%を超えると、胴割米の発生率が急激に高くなります。
→ 成熟期～収穫期の高温により立毛胴割れが予想される場合は、毎時乾燥速度が 0.5%以下になるよう送風温度を低く設定するとともに、過乾燥には十分に注意してください。
- ③ 仕上げ水分は「14.5～15.0%」に仕上げましょう。→ 過乾燥は胴割れ・食味低下を招き、高水分玄米（15%以上）は、玄米水分の戻りによるカビ米の発生原因となります。

[illegible]

※ **★** は、出穂盛期を表す ($\longleftrightarrow$ は、出穂期の幅)